

兵庫県子ども・子育て会議 第1回計画改定部会議事概要

- 1 日 時 令和6年9月2日（月）14時半～16時半
 2 場 所 兵庫県民会館 鶴
 3 出席者 伊藤部会長、橋本委員、爲谷委員代理、濱名委員、松谷委員、石沢委員
 3 内 容

内容	
全体について	
全体の表現が適切に変更されている。「誰も取り残さず」という理念が言葉や柱立てに反映されている。	
こども家庭庁が設置されたのは、こどもの命や暮らしが脅かされているという現状もあると思うので、それを反映するものにしてほしい。	
基本理念、目標	
基本理念も、「子ども・子育て」のプランであるため、「子ども」という視点も入れて欲しい。(例えば「すべての子どもが健やかに育ち」など)	
目標にある「切れ目ない支援」は、ライフステージの時間軸だけではない。子育て家庭は複合的ニーズを同時に持つ。同時に対応できる切れ目ない支援が必要という趣旨をプランに記載して欲しい。	
推進方策、取組みの柱について	
<u>I 若者の経済的基盤の安定とライフデザイン構築</u> <u>2 ライフデザインの構築への支援</u> 「妊娠・出産に関する正しい知識の普及・啓発」となっているが、何をもって正しいとするかは難しい。言葉の使い方としては工夫が必要	
<u>I 若者の経済的基盤の安定とライフデザイン構築</u> <u>3 子どもの学びを支える環境の充実</u> いじめや不登校等への支援が書かれているが、自殺対策が無いのではないか。	
<u>II 結婚・妊娠・出産の希望が実現出来る切れ目のない支援</u> <u>2 不妊に悩む方への支援</u> 「プレコンセプションケア」という言葉は一般の方がすぐに理解できないので、工夫が必要。	
<u>III 幼児教育・保育と子育て支援の充実</u> <u>1 保育の受け皿拡大と質の確保</u> <u>2 保育人材の確保</u> <u>4 幼稚園における取組の充実</u> 2020年に幼稚園教育要領と保育所保育指針が改訂され、どちらも幼児教育を担う施設とされた経緯があるので、1と2と4はその視点で整理できないか。「乳児の保育と幼児期の教育・保育」とするのが、今の流れに沿うのではないか。	
<u>III 幼児教育・保育と子育て支援の充実</u> <u>4 幼稚園における取組の充実</u> 幼稚園における取組の充実に「子育て支援の推進」が入っているが、保育園でも必要。	
<u>III 幼児教育・保育と子育て支援の充実</u> ヨーロッパでは、乳児が保育で、幼児が教育という区分ではなく、「乳幼児教育・保育」	

<p>ということが主流。これらを打ち出すと、兵庫県の新しさも出てくるのではないかと。</p>
<p>Ⅲ幼児教育・保育と子育て支援の充実 5子育てや教育に係る経済的負担の軽減 幼児教育無償化は「・保育」が抜けている。</p>
<p>Ⅵ特別な支援が必要な子どもや家庭への支援 1 児童虐待防止の充実 「防止」だけではなく、その前段階の「予防」の側面も強調して欲しい。</p>
<p>Ⅵ特別な支援が必要な子どもや家庭への支援 9 外国人の子どもへの支援 子どもだけではなく、家庭支援も重要な要素であるため、「子どもとその家庭」とした方がよい。</p>
<p>数値目標について</p>
<p>放課後児童クラブの数値目標は全県の数値になっており、地域ごとの課題が見えにくい。実情をしっかりと見ることが大切。</p>
<p>数値目標は、現在のものは少子対策の指標に偏っているように感じており、次回部会でご提案できるよう検討していく。</p>
<p>兵庫県のプランの独自性について</p>
<p>プランの中に、兵庫県の独自の部分がどこかあれば教えてほしい。</p>
<p>現行プランでは、数値プランを詳細にしているところが特徴。出生率、出生数は他府県でも目標に置いているが、本県は待機児童が多い背景から、待機児童対策にも目標を置いている。婚姻数についても、結婚支援に力を入れてきた経緯から設定し、本来は自然増対策が中心のプランだが、社会移動についても目標を定めている。重点テーマとしては、特に「若者の希望がかなう兵庫」として、若者に重点を置いているのは特徴的。</p>
<p>推進方策については、柱立ては他府県と概ね同様だが、事業もいろいろな角度から記載し、きめ細やかなのが特徴。</p>
<p>放課後児童クラブへの支援について</p>
<p>放課後児童クラブの取組に期待している。</p>
<p>待機児童数はなかなか減らないが、現状の分析をし、的確な今後の取り組みを提起して欲しい。</p>
<p>阪神間は保育所も放課後児童クラブもすべてにおいて人材確保が難しい。市によっては人材確保への金銭的支援があるので、市町間に差が出る。県と協力しながら解消に向かって一緒に取り組みたい。</p>
<p>放課後児童クラブの拡充は県でどこまでできるかという課題があるが、放課後児童クラブに入所できずに退職する方が非常に多いので、努力が必要。</p>
<p>今年度放課後児童クラブの夏休み開所事業を実施している。実施状況を踏まえてニーズを探っていきたい。</p>
<p>男性の育休取得率の向上、ワークライフバランスの向上について</p>
<p>男性の家事育児の参加の促進や働きかけにおいては、県自ら職員の育休取得率を上げ、兵庫は県が率先してやっているというメッセージなど出し方を工夫しても良いのではないかと。</p>

男性職員の育休取得はプランにどこまで連動させられるか関係部局と協議したい。
ワークライフバランスを県が率先していくことが大切。効果がどうだったかということも検証しないと定着しない。
保育人材等の課題について
小学校の教員、保育士、幼稚園教諭等に対するカスハラのような対応をする親がいる。人権意識を高めていくことが重要。
カスハラについては、認定こども園ホットラインでも7～8割が園に対する不満が大きいが、保育士からの不満として、保護者からの理不尽な申し出を受けたというケースも聞いている。保育士が長く働いていただくための支援が必要と思う。
保育士等の養成校の希望者が減少している。給与が低いというイメージが高校の進路指導者の中に残っており、優秀な学生に対しては、教育・保育を勧めない。子育てをしながら働くということはどういうことか、ということも含めて、キャリア教育の見直しが必要。
養成校の卒業生は、就職先に半数くらいは保育園等を選ばない。選ばない原因は何かも研究しなければならない。
保育士等の職業が選ばないという現状がある。待遇面は改善されつつあるが、保育や保育士への社会的評価が低い。幼稚園や保育所等、養成校のみではなく、行政も含め社会全体で保育という仕事が選ばれないという事実に向き合う必要がある。子どもを育てること、保育の意義を見直し、再評価する必要がある。
トライやるウィークを高校生でもするとよいのでは。宝塚市では実施している学校もある。県全体として取り組みができればよい。
ひとり親世帯の支援
離婚する家庭が多くなっており、育児がワンオペであることや、貧困に苦しむ人も多い。そのような場合のケアも必要。
結婚を推奨することも大切だが、離婚したときの安心感が大前提としてあるべき。支援施策を実施するだけでは無く、教育もしていかなければならない。社会みんなで守っていこうという機運も大切。
一人親支援はセーフティーネットが大切。児童扶養手当は所得制限があるが非常に低い。本来なら国が見直すべきで、県では支援は難しいだろうが指摘しておく
不妊治療支援、予期せぬ妊娠への支援について
不妊治療支援も重要。一方、望まない妊娠をして中絶している人もいる。赤ちゃんポストや特別養子縁組の推進など、広域行政として県が考えてもよいのでは。せっかく授かった命を大切にしていける施策を進めて欲しい。
特別養子縁組は現実として年間10組程度というのが一つの課題。今後も引き続き取組を進めたい。
婚外子等に関する研究会が全国知事会で立ち上がるとの話があるので、そこでの研究を注視していきたい。
子ども・若者への意見聴取について
重点テーマは、「若者の希望が叶う」となっているが、若者の意見を聞けていない。パ

ブリックコメント前に広く若者に意見を聴取する手立てがないか。

パブコメについては、大人向けのものに加えて子ども向けの2種類を作ろうと考えている。

こどもの意見聴取は、プラン策定のためだけにするのではなく、今後のこども政策に引き続き関わることと認識している。この秋からはこども政策モニターを実施し、小4～高校生の悩みや希望を捉え、フィードバックしていきたい。

今回のプランのポイントは個性や人格を尊重し、子育て当事者の声を吸い上げることで、なるべく手法は多様にすることが大事。パブコメにしても大人や子どもだけではなく、若者へ訴えるようなバージョンを作るなど、吸い上げ方の細かさを工夫するのも一つ。

広報の工夫

このプランの対象者となる世帯が2割を切っており、こどものいる世帯が社会の中でマイノリティとなっている。プランに対して兵庫県の全体の8割が関心ないと考えられる。その8割の方にもプランの内容が周知されるように工夫が必要。

大阪が高校授業料を無償化する中、兵庫から子育て世帯が流出しかねない。兵庫の子育ての特徴をきめ細やかさを、パッケージとしてPRしていくことが大切。

プランは、広く県民の皆様理解していただくのが大事。いろいろな方法で皆さんに広く周知して欲しい。

子どもたちから意見を聞くことは重要。子どもたちがプランについて理解して進めていくと、より良くなるのでは。

プランの周知についてはHP載せる以外にも、何か方法を考えたい。